令和８年度青少年グローバル共感キャンプ　参加レポート

報告者　大谷　咲希

青少年グローバル共感キャンプで印象に残ったこと

この研修で特に印象に残ったのは韓国のルームメイトとの生活です。私のルームメイトは日本人女子 ２人、韓国人女子 ２ 人の ４ 人部屋でした。最初に部屋分けを見たとき過ごしやすそうだなと思い、実際にとても楽しく過ごせました。だけど、初めての海外だったので、日本とは違った環境で過ごす中、ストレスを感じることもありました。そんな時、韓国のルームメイトの一人が駆け寄ってきて励ましてくれました。さらに部屋に戻ると、たくさんの韓国人の友達が声をかけてくれました。私はとてもうれしくて、心が温かくなりました。今でも思い出すと涙が出そうになります。言語や文化が違っても、人の温かさは伝わるのだと感じました。

青少年グローバル共感キャンプで学んだこと

私はこの研修で２つのことを学びました。一つ目は間違いを恐れず積極的に話すことです。最初は自分の話す英語がちゃんと伝わるのか不安で、 翻訳機を使っていました。でも一度勇気を出して話しかけてみると、完璧でなくてもコミュニケーションをとることができました。相手と英語で会話することで、英語を話すことが楽しいと思えるようになり、会話する意欲が高まりました。普段の学校生活や日常生活では日本語を使うので、英語を話すのにためらっていたけど、この研修は海外での活動だったので、自由に英語を使うことができ、いい経験になりました。

二つ目は先入観にとらわれず、自分から行動することです。このキャンプは日本と韓国だけではなく、中国の中学生も参加しました。私ははじめ、言葉や文化の違いから、どのように接すればよいか分からず、少し緊張していました。しかし、こんな機会は一度きりだと思い、隣に座った中国の女の子に挨拶をしてみました。すると、女の子は挨拶を返してくれて、中国のお菓子をくれました。最終日にも「一緒に写真を撮ろう」と声をかけてくれました。相手のことをよく知らないまま決めつけず、思い切って話しかけてみてよかったと思っています。

このキャンプで、英語学習だけではなくいろいろな人と関わることで、自分自身も成長したと思います。



持続可能な社会のために、私たちにできることを
考えるグループワーク

これから、いかしたいこと

　今回の韓国での研修を、これからの学校生活にいかしていきたいです。特に、失敗を恐れず挑戦することを大切にしたいです。今までは学校の ALT の先生に話しかけたいと思っても、「上手く伝わらなかったら」という不安で諦めていました。でも、この研修で、どうしたら相手に伝わるかを考えながら話していたので、これをいかして ALT の先生に話しかけてみたいと思います。また、普段の授業でも間違いを恐れずに発言し、研修で身につけた「積極的に英語を話す姿勢」をいかせるよう、取り組んでいきたいです。



「Jeju in a Bottle」
済州の自然をモチーフにした 8 つの香りを調香し、
オリジナル香水つくりを体験